

青年期女子が小さな閉鎖的集団から踏み出し成長していくプロセス

- ピア活動のある会員制インターネットコミュニティの中で -

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
家族機能・社会臨床クラスター
大熊 愛

本研究は、インターネットコミュニティを利用しながら青年期女子の人たちが高校生時、大学生時にあるそれぞれの課題をどのように乗り越えてくのかを検討することを目的とする。青年期における課題として、これまでの人生で経験してきた自己像の調和ということが言われている。さらに、高校から大学までの時期は友人関係において、同質性を求める chum-group の段階からお互いの違いを認め、将来について語り合うことのできる peer-group の段階へといく頃である。このような段階にある青年期女子における対人関係の特徴を先行研究から明らかにするとともに、ピア活動が行われているインターネットコミュニティでスタッフ活動をしていた人たちのインタビュー調査を通して、インターネットコミュニティを使うことで青年期にある課題をどのように乗り越えていくのかを明らかにすることが目的である。今、インターネットによるコミュニケーションサイトは数多く存在している。さらに、インターネットを使った犯罪などの危険性もしばしば叫ばれている。そんな中で青年期にある人たちにとってインターネットはどのようなものとなりうるのだろうか。

調査については、高校生利用者と大学生を中心としたスタッフによって構成されている会員制のインターネットコミュニティを対象とし、そこでスタッフとして働いていた女性6名によるインタビューを行った。彼女らの語りを書面に起こし、そこから4つのカテゴリに似ているものをグルーピングし、名前を付け、特徴を見出していった。

その結果、対象としたインターネットコミュニティがピア・サポート的な場であることがわかった。その上で、高校生時はインターネットコミュニティで様々な価値観を持った人と出会うことで狭くなりがちな世界を広げ、自分自身の少し将来をいく人たちの姿をモデルとしていた。それと同時に、ピアによる安心、守られている感から自分の日常における不安を様々な形で吐き出していることがわかった。大学生になると、スタッフという立場になることもあり、高校生へのアドバイスを通して自身の過去を一貫性のある物語として語り、自分自身に一貫性を持つのである。さらに、このコミュニティを運営している企業との対立などを通して、職業社会に触れ、社会化されていく過程も経験し、それらの経験が結果的に青年期の課題を乗り越えていくものとして作用していることがインタビューにより考えられた。これらのことからインターネットコミュニティを利用していくことに対し、危険性は確かにあるかもしれないが、ピア活動の行われているインターネットコミュニティでは青年期の課題にマッチし、彼女らの成長を助けていく側面があると言える。